

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年10月10 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム あおいの家
所在地	鹿児島県薩摩川内市隈之城町1248番地1 (電話) 0996-20-3221
自己評価作成日	平成26年7月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古い歴史のある静かな住宅の一角の良い環境の中で、入居者が安心した気持ちをもって生活でき、職員の対応も含め我が家の暮らしと変わらないように日々の目的として努力しています。地域の方々との交流もあり、四季折々の野菜など持って来てくださるなど、地域と密着した、地域の中で生活している実感が持てる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームは国道3号線から少し入った閑静な住宅地に設置されており、温泉センターと市の公園に隣接し、近くには小学校や保育所、協力医療機関等があるため、人や車等の往来が施設から眺められる。また、家族や友人知人の来訪や地域の人から野菜等の差し入れも日常的にあり、これらの人々との交流は利用者の楽しみとなっている。広い敷地には季節の花や野菜が植えられ、隣接する公園へホーム内からの道も設置されており利用者は外出を楽しんでいる。

・管理者は、何よりも職員が信頼関係と円滑なコミュニケーションに基いて利用者のケアに取り組むことが、サービスの向上に反映すると考えており、職員のスキルアップに繋がる研修や職場環境の整備に積極的に取り組んでいる。そのため職員の要望や意見の把握に積極的に努め、介護福祉士等の資格取得希望者には外部の専門講師を依頼して学習の場を設けたり、また、就労しやすい環境づくりの改善策として、法人による施設内託児所も近日開設の予定である。

・管理者及び職員は理念に基づき、利用者が住み慣れた地域の中で親族や友人たちと関わりを持ちながら、その人らしく安心した生活が営めるように、利用者の尊厳を大切に、気持ちに沿ったきめ細かな支援に努めており、利用者及び家族との信頼関係が構築されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方が地域社会の一員としての自覚を持てる、ゆったりした環境の中で笑顔で安心した生活が送れるように職員一同が理念を共用し実践に努めている	開設時に、職員全員で作成したホーム独自の理念に沿って、利用者の尊厳を大切に、日々思いやりのある支援に取り組んでいる。理念はいつでも確認できるように、ホール及び事務室の壁面に掲示してあり、朝礼や夕方の申し送り、月1回開催の職員会議等で随時、研修や振り返りを実施して、理念の理解と理念に添ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域住民が足を運びやすい環境整備を行っている。また入居者が外出時でも、地域住民とのコミュニケーションを積極的に行っている。	自治会に加入し、地域の清掃や公民館のサロン等に積極的に参加すると共に、施設が実施する敬老会、誕生会等は地域・家族に案内して参加を頂いている。温泉センターが隣接しているため人の往来が多く、親戚や友人知人の来訪も頻繁にある。野菜の差し入れをいただいたり、近くの保育所の子どもの触れ合いや踊りのボランティア訪問、日常的な近隣散歩や買い物等で地域との交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	利用者への日常支援が手一杯で、地域の人々に向けて活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会は行われており、ホームの行事計画やサービスの情報提供を行い、資質の向上を図っている。また消防職員や警察職員等声かけを行い防犯や防災についての意見交換会など行っている。	会議には家族代表、地域住民や市担当者、民生委員、交番の警察官、消防署員等が参加して2カ月に1回定期的に行われている。入居者の状況や施設の行事、研修、問題点の取り組み状況の報告がなされるとともに、委員からは災害を想定してのアドバイスや地域の高齢者に関する情報が出されるなど活発に意見交換が行われ具体的に日々のサービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会も含め、各申請時や電話等にて、情報や相談及び指導を受けている。</p>	<p>市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、日頃から市の担当者を訪問して、現況報告や各種の手続きに関する事及び施設の運営やケアに関する相談や意見交換を行うなど協力関係が築かれている。これらを利用者のサービス向上に反映させている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>帰宅願望があり、外に出たがる人に対しては一緒に散歩するなど対応し、施錠はせず対応できているが、場合により施錠することもある。また職員会議や朝礼等で身体拘束について話し合っている。</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を、独自に作成したマニュアルを基に実施し、また他機関が実施する研修にも積極的に参加して理解を深めている。日々の支援の中で身体や言葉による拘束の無いように職員相互で喚起しあって、ケアの質の向上に努めている。外出したがる利用者には職員が同行して近隣を散歩するなど工夫して安定を図っており、利用者の気持ちを大切に暮らした支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等において勉強会など行い、身体的・精神的・言動的虐待が行われないように努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については、殆どの職員が把握しておらず、学ぶ機会も現在のところ設けていない。</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居にあたり利用契約書に基づき十分な説明と理解をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やホームのサービス向上を図るため意見や助言、提案を傾聴し更なるサービスの向上に努めている	利用者の思いや意見は、声かけや所作の見守り等で把握すると共に、家族からは電話や来訪時の対話の際に、話しやすい雰囲気を作り、遠慮のない意見や要望等を頂くように努めている。毎日の朝礼や申し送り、毎月の職員会議等で内容を共有し、対応についても十分に話し合いを行い可能な限りケアへの反映に取り組んでおり、これらの結果は本人や家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する検討会は開いていないが、月1回の職員会議を開催しているが、運営に関する意見は少ない。	職員の意見や要望等は、日常の業務の中や朝礼、申し送り、職員会議時に、また、内容によっては職員個々に合わせた声かけも行う等、話しやすい雰囲気作りに努めて把握し、管理者はこれらを業務改善や利用者へのサービス向上に反映できるように取り組んでいる。特にケアに関することは、職員の意見を十分傾聴し全員で検討して、質や意欲の向上に繋がるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は頻繁に現場に来て職場で色々な出来事を報告し、実情を理解されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>、職員の知識向上のため、職場での勉強会及び各研修においても積極的に受講させ、資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者同士の情報交換の交流はあるが、ネットワーク作りや相互訪問等の交流は出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談及び入居前の契約時にホームにて本人と家族に面会し、環境の確認など順応性を見極めを本人にしてもらい、本人が安心して受け入れて貰えるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なことを傾聴し信頼関係を築くようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたってのアセスメントを行い、現状把握をし、他の施設への検討したりして対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症を患っている高齢者が共同生活を円滑に行えるように職員は信頼関係を築こうと日々努力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方在住でなかなか面会できないご家族には電話連絡や文書にて随時現状報告をおこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも、本人が以前住んでいた場所等、ドライブをしている。	利用前に本人や家族から、生活歴、病歴、地域の人との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行いアセスメントシートに記載して情報を共有している。本人の希望に沿って行事への参加や買い物、外出等の支援を行っており、馴染みの人や場との関係継続に家族と連携して努めている。遠方に居住している家族とは電話や手紙の取り次ぎ等により関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場になっている食堂兼ホールでの配席は、人間関係の構築の場として特に重要視し、配慮した工夫を必要ごとに行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退所後は、入院先に出かけ療養の様子を伺っている。又退院後の施設相談を家族や病院ワーカーから受けることもあり、出来る限りの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成及び見直し時期には必ず、本人の意向を傾聴し、思いの訴えない方には家族の意向等を勘案し、本人の立場にたった意見を出し合い検討している。	日頃の利用者の表情や言動、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めており、それらは申し送り帳や日誌に詳細に記載して情報の共有を図っている。家族の意向も確認しながら利用者にとって、よりよいケアとなるようにプランに反映させて支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の1人ひとりの人生の背景を考慮し、その人それぞれに添うサービスが実践できるように家族や関係者から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来ること、出来ないことを把握し、その有するの能力が発揮できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状把握を行い、家族との連携を図りながら、本人の意向を重点におき、職員一同の意見を交えながら入居者の介護計画を作成している。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を十分に聞き取り、また、主治医や職員の意見も基にして利用者本位のものを作成している。支援の経過はケース記録に丁寧に記入されており、モニタリングを3カ月毎に実施している。、利用者の実態に沿った計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>1人ひとり日々の体調面、精神面、ケアの実践等を個別に記録し、その内容について職員間で共有しながらケアに活かすようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の心身および身体の変化に合わせて柔軟に対応するように職員一同が心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が地域に馴染んだ環境を活用し安心して過ごせるように努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携は、十分に行っており、緊急性および急変事の対応や連絡は的確に行い、受診時は必ず、職員が行っている。</p>	<p>利用者の入所前の病歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院は職員の同伴が多く、また協力医療機関の定期的な往診もあり、それら受診結果は、ケース記録や申し送りノート等に記録して共有を図っている。かねてから医師や家族との連携や情報交換も適切に行われており、緊急時の協力医療機関との連携も構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタル時や、精神状態、入浴時などの観察を含め特別な変化に気をつけり、異常の兆候があれば、管理者に報告、適切な受診を受けられるよに支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による医療機関との連携は入院後随時情報の把握として常に面会時に行い、医療関係者との情報交換を行っている。また退院を想定した援助にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針は、医療機関にお願いしターミナルケアについては取り組んでいないが、家族の要望があれば、事業所でできる事を十分に説明し了解を取り、主治医との話し合いにより、ホームで介護可能な場合、協力医との連携を取りチームで支援している	重度化や終末期のケアについては、ホームの方針を重要事項に記載しており、利用開始時に十分説明して理解を得ている。重度化した時点で、家族の希望や主治医及び職員の意見等を参考に十分な話し合いを実施して対応しており、これまで3事例の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内研修等を活用し、利用者に対する急変事時対応等の研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施している。災害発生時には自治会や周辺の方々に協力依頼をお願いしている。	消防署との連携により年2回、主に火災を想定した避難・消火・通報訓練等を実施しており、併せて消火器等の取扱いや避難経路の確認の研修も実施している。スプリンクラーや自動通報装置等の設備も充実し、また、食料や飲料水・関連備品（卓上コンロ、懐中電灯、医薬品等）も準備されている。万一、火災の発生時には、近くの住民の協力が得られる体制になっており、緊急時の連絡網にも組み込まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修や、朝の朝礼等で話し合いなど行いプライバシーの確保や利用者への接遇向上に努めている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事のないように、丁寧な声かけや対応を日常的に心掛け、また、職員会議や申し送り時に繰り返しかケアの方法等について研修している。利用者の人格や感性を大切にして、利用者のペースに合わせた対応となるような支援に努めており、入浴や排泄時の配慮や個人台帳等の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が共同を強いられていることを勘案し、思いや希望を確認しながら、声かけえを行い自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に業務に合わせるのではなく、基本的に利用者の生活リズムに職員が合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視し、在宅での服装に近い物を準備して貰っている。また、それに向けての支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握しており、季節にあった家庭的な料理を食べてもらっている。食事の後片付けができる方には、手伝ってもらっている。	利用者の嗜好、食事形態、疾病や服用中の薬との影響等を十分に把握しており、希望を取り入れながら差し入れの野菜や施設の菜園の野菜も活用して、バランスの良い食事づくりに努めている。季節感のある食材や行事食、温泉センターでの外食、弁当を持参しての外食等、食事を楽しめるように工夫している。下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、1人ひとりの体調面を把握している。午前、午後にお茶の時間を設けており、水分等を摂ってもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い自分でできる方は自分で行ってもらい、磨き残しのないように一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方が2名を残し、その他の入居者の方は一部介助を行っている。夜間等はポータブルトイレを使用される方も数名。日中はトイレでの排泄援助を行っている。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように、排泄チェック表を活用して、不安や羞恥心にも十分配慮しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者の状況に合わせた適切な対応になるように職員が十分に話し合い、ケアプランにも組み込んで改善に努めており、おむつ使用からトイレでの排泄が可能となった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方はかかりつけ医と相談の上服薬管理を行い、排便チェック、主治医の指示による排便コントロールや水分補給など適度な運動への働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は午前中に行い、1人の方に対し週3回の入浴の実施を行っている。それ以外汚染された方は曜日を問わず的確な対応を行っている。	基本的には週3回の入浴であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面に留意しながら、可能な限り個人の好みをくみとり入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には、言葉かけ、時間帯、順番、スタッフ等を変更するなど、スムーズに入浴できる環境づくりの工夫を行い無理強いすることなく入浴してもらっており、シャンプー等好みのある利用者には希望に添って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせた支援で休息や睡眠をしてもらっている。体操やレクリエーションなど以外は殆ど自由な時間として入居者の皆様には過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬の説明書を添付し、随時確認出来るようにしている。臨時処方 は管理者が連絡帳に記載し、報告している。特に臨時薬の副作用等に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿った役割として洗濯たたみや掃除、また草取り等を行って頂いている。気分転換に散歩など取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別で散歩を希望されるときには随時対応できるように努めている。本人希望の外出は家族の協力ももらい外出するようにしている。	利用者の健康状態や天候を考慮しながら、近くの公園や隣接の温泉センターへの散歩、ドライブ、園庭での日光浴等を日常的に楽しんで頂いている。また利用者の希望も確認しながら、買い物や馴染みの床屋に同行して地域の人と交流するなど、外出が楽しみなものになるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金を持たれている方は2名ほどおられ、うち買い物され自己管理されている方は1名である。買い物がある場合職員の付き添いで支援している。その他金銭管理が出来ない方が殆どで事務所で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知人との連絡を希望される時は常に援助を行っている。認知面で手紙のやり取りは難しい。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活の場としての環境は利用者が落ち着かれるような飾り付けや雰囲気作りを行っている。</p>	<p>広い敷地には花壇や菜園も配置され季節の花や野菜が栽培されていて、利用者は散歩や収穫を楽しんでいる。リビングはゆったりと明るく、随所に利用者と職員合作の貼り絵や絵画、似顔絵等の作品が飾られ、和やかな雰囲気づくりの配慮がなされている。また、室温や換気にも十分な配慮が感じられ、不快に感じる音や臭い等もなく清潔に整頓されている、</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファを設置、思い思いの場所で過ごせる。また入居者同士でのお喋りや、ゆっくりテレビを見たり一人で自由に過ごせる環境作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は個人の使い慣れた家具等を設置し、安心して過ごせるように配慮している。</p>	<p>各居室にベッド、エアコンが備えてあり、本人やご家族の希望に沿って家族写真、使い慣れたタンスや食器、小物、花、身の回り品等を自由に持ち込んで頂いて、好みの配置で、家庭と同様に落ち着いて過ごせるような居室づくりを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に自力移動が出来るように手すりを設置し、自分の居室がわかる名前と写真を表札代わりにして自分の部屋を確認し、入れるように自立した生活が送れるように工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない